

【ポスター発表】

保育士養成課程における施設実習に関する研究の概観

—福祉系科目との関連に焦点を当てて—

○ 山梨学院短期大学 田中 結香 (010189)

中村 成一郎 (独立行政法人地域医療機能推進機構山梨病院・010191)

保育 施設実習 協働

1. 研究目的

保育士養成課程で行う施設実習に対し多くの学生が不安を抱いていることが先行文献で示されている。コロナ禍において通常の施設実習が行われていなかった現状も、この後押しとなっている。学生の抱える不安を解消し、より効果的な施設実習を実現するために、これまで過去に行われてきた施設実習に関する研究を概観することは不可欠である。そこで本研究は、保育分野における施設実習に関する課題を概観して整理し、探索的に施設実習の課題を明らかにすることで、今後の学生の指導及び研究に役立てることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

保育分野においては館山(2018)が、保育士を目指す学生が抱える課題と変化について、1949年から2018年9月までに発表された保育・学生に関する研究の論文のタイトル4672題を分析し、最も研究されている可能性のある語が「実習」であることを明らかにしている。さらに、「不安」という語も関連して出現しており、実習に対する指導という形で研究されていることを指摘している。また、施設実習に関連する先行研究のうち、「施設実習が学生の保育観に与える影響」、「施設実習において生じる学生の不安や悩みに対応した授業内容の改善策の検討」等は散見するが、保育分野における施設実習に焦点を当てその課題に関する全貌を整理している研究は見受けられないことから、保育分野における施設実習の概観を整理する意義はあると考える。

研究方法は、CiNii(オープンアクセス)のデータベースで「保育」、「施設実習」と入力して出力された234本の論文のタイトルを分析対象とした。分析には統計ソフトKH Coder(Version:3.Beta.05b)を使用し、計量テキスト分析を行った。

3. 倫理的配慮

すでに一般公開されている文献を利用するが、検索結果の管理と著作権等における情報の取り扱いには十分留意するとともに、日本社会福祉学会の「研究倫理規定」に基づき配慮した。また、分析対象とした論文の論旨や文脈の意味を損なわないよう留意した。開示すべきCOIはない。

4. 研究結果

総抽出語数は2,496語であり、異なり語数は470語であった。語の豊かさを示すトークン比は0.19であった。頻出語の全体の傾向を確認したところ、「実習」、「施設」、「保育」、「養成」、「学生」、「指導」、「考察」、「課題」、「課程」、「障害」、「調査」、「意識」、「事例」、「児童」、「研究」、「評価」、「現状」、「教育」、「アンケート」、「分析」が上位20語を占めていた。施設実習に対する研究の傾向については、論文のタイトルを年代ごとに2020年代、2010年代、2000年代、2000年以前の4つの区分に分けて対応分析を行った。また、共起ネットワーク分析を行い、サブグラフ検出による出現パターンは、6つのグループに分かれた。【コロナ禍における実習の代替授業】【実習への不安と事前・事後指導の現状と課題】【日誌や記録の指導】【学生の障害に対する意識の変化】【児童福祉施設での実践報告】【実習内容や自己評価に対する分析や検討】と命名した。

5. 考察

1) 新型コロナウイルス感染下における施設実習の状況

新型コロナウイルス感染下における施設実習の状況では、対応分析において、2020年代では「コロナ」「学内」「代替」「演習」が見られた。共起ネットワーク分析でも、【コロナ禍における実習の代替授業】が抽出され、コロナ禍の研究の特徴的な結果を示している。これは他の保健医療福祉分野においても同様に、代替プログラムで実施する養成校が多かった。今後同様の事態に陥った際には、これまでの報告を参考にしながらその状況に応じた検討が重要となると考えられた。

2) 実習前不安に対する事前・事後指導の重要性

多くの養成校では施設実習における学生の実習先の調整に苦慮しており、学生は実習が開始される前段階から施設実習に対する不安が存在することは否定できない。【日誌や記録の指導】【学生の障害に対する意識の変化】からも、基本的な文章表現や障害者への印象等を事前指導の授業で可能な限り解消することは重要な事項である。実習事前指導において学生が自らの課題と向き合えるよう学習内容を設定していくことが必要であると考えられた。

3) 実践の振り返りの必要性

事後学習においては、実習で実際の観察や体験をしてきた実践を、これまで学んだ理論や方法論と結び付けていけるよう、理論と実践の循環が意識できるような指導が必要と考えられた。【児童福祉施設での実践報告】からも、実習報告会等を通じて幅広く理解を深めることにつながると考えられた。

4) 福祉系科目との関連

「社会福祉」「子ども家庭福祉」「子ども家庭支援論」「社会的養護」等の福祉系の科目では、施設実習の基本となる知識や理論を多く学ぶことから、施設実習の不安軽減のためには、これらの科目とどのように連動させていくかも重要であると考えられた。